

岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 山田 和正

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

- 1 会の名称 学校を考える会
- 2 会の構成 委 員 岩佐 洋二 株式会社 岡本 常務
大橋 仁壽 株式会社 大垣鐵工所 取締役社長
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長
羽賀 和子 地域住民代表(元育友会副会長)
前田 勸次 地域住民代表(元育友会会長)
(委員名は五十音順)
学 校 側 山田 和正 校長 林 忠弘 教務主任
山川 清 副校長 宮浦 英夫 生徒指導主事
松原 行雄 事務部長 牧村 高憲 進路指導主事
戸崎 晴雄 教頭(全) 川井 正士 特別活動部長
高瀬 仁士 教頭(全) 川嶌 俊夫 工業部長
渡邊 克尋 教頭(定)
- 3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。そのため、岐阜県立岐阜工業高等学校に学校評議員を置く。
- 4 会の開催 平成21年2月16日(月) 12:00~16:40 岐阜工業高等学校 校長室
委員2名と学校側9名が出席
- 5 会の概要

主テーマ 工業高校に期待するもの

生徒研究発表会の参観

各学科3年生の代表が課題研究などで取り組んできた研究の成果を全校生徒の前で発表する発表会を参観していただいた。生徒の熱の入った発表に耳を傾けていただきました。発表会には、企業や大学、中学校からも70名の参観をいただきました。

感想

- ・各専門学科の特徴を活かした研究の発表で楽しく参観しました。工業高校生の頑張っている姿が印象的です。
- ・始まりでは、できるかなという不安、進めて



いく内に、できるかもという期待、最後には、できたという充実感。これがとても大切な体験です。社会に出てきつと役立つはずです。

- ・プレゼンテーション能力に大きな差が出てきたと感じました。この分野の指導内容を共有化できると全体のレベルアップにつながると思います。



学校の教育現状について 報告

教育実践 学校長より この1年間の取り組みを、数多くの新聞に取り上げて頂いた記事を基に報告する。

- ・工業のものづくり大会や資格・検定の成果によるジュニアマイスター顕彰制度での全国トップクラスの実績を上げていること、今春の選抜大会（全国）へバレー部・レスリング部・ボクシング部が出場するなど活気ある生徒の活動を聞き、頼もしく思います。
- ・70回目を迎えた「耐寒強歩大会」など伝統を受け継ぐ行事も岐工らしさだと思います。

来年度に期待するもの

- ・コミュニケーション能力は、技術者としてみれば理解できるのですが、一般の大人としてみると、商業系の生徒に比べると低いかなと感じます。工業の技術や技能とともにこれらの能力の育成にも力を注いでください。
- ・最近の高校生は、妙におとなしくなった？と感じることがあります。また、企業人からみると、覇気が感じられない、物足りないとも感じる人が多いです。家庭や学校の教育において、自分をしっかり見つめて、自信を持って生活できるように育ててやってください。
- ・厳しい社会情勢ですが、不況だから仕方ないと考えるのではなく、日本の基幹産業はやはり工業です。将来に夢を持たせてください。
- ・「聞いている」、「知っている」より、「何かをやり遂げた」生徒に魅力を感じます。実践力の

会のまとめ

実習を中心とした授業参観、生徒の素顔を見て頂いた文化祭、3年間のまとめ活動の研究発表会と本校の普段の取り組みを見ていただき、多くの示唆をいただきました。これからも資格取得や部活動など自己を高めることができる生徒、環境、エコロジー、福祉といった身近な問題に工業高校生としてどう取り組むかを考えられる生徒を育成していきます。また、様々な場面で活躍できる岐阜工業高校であり続けていこうと思います。